



一般社団法人ケアと暮らしの編集社

年次報告書

2022-2023

ケアと暮らしの編集社は  
**豊岡市**を中心に活動しています

## ごあいさつ

代表理事 守本陽一



ケアと暮らしの編集社の三期目が終了しました。法人の3年生存率が5割と言われている中、無事3年間を乗り越えることができたのは、共に荒野を歩んでいただいた皆さんのおかげです。2022年度は、いくつかの新たな事業が始まりました。障害者、患者という枠の中で支援する/されるという関係性で関わるのではなく、共に暮らしを作っていく仲間として、街で出会う場を作れないかと考え、だいかい文庫等の事業を行ってきました。そこに新たな選択肢が加わりました。課題を共有し、地域活動を共創するプラットフォームであるゆるいつながり研究室、当事者性が発揮される社会包摂型の市民大学であるみんなのだいかい大学です。そこから既に新しい活動や表現が生まれています。これからも専門性の集合知を生かし、街に関わるすべての人が居場所や表現ができる地域社会に向けて、ひとりひとりの当事者性を後押しできる組織でありたいと考えています。引き続き、皆様と共に創っていくことを願っております。

## ビジョン

街で暮らすことで気づいたら  
Well-being になっている社会

## ミッション

ケアするまちを  
デザインする

# これまでのあゆみ

2015.8 代表守本が  
地域診断プロジェクトを豊岡市で開始

2016.12  
YATAI CAFE  
開始

2019.8 ケアとまちづくり未来会議  
を豊岡市で開催

2020.11  
一般社団法人  
ケアと暮らし  
の編集社を設立

2020.12  
本と暮らしのあるところ  
だいかい文庫オープン  
居場所の相談室  
社会的処方プロジェクト  
開始

グッドデザイン賞 受賞  
私の選んだ一品にも選出

2022.10

みんなの  
だいかい大学 開始  
2023.1

2022.12  
ゆるいつながり研究室  
開始

# GOOD DESIGN AWARD 2022



本と暮らしのあるところ

## だいかい文庫

だいかい文庫は、2020年12月から兵庫県豊岡市の駅通商店街の一角に、開館しています。既存の制度上にある縦割りの医療福祉の相談の場、マイノリティの居場所ではなく、本というテーマに共感した人がカテゴリーに関係なく集まれる図書館です。無料で利用できる館内は、本を読んでも、人と話しても、本を借りに来るだけでもいい自由な空間です。図書館、居場所、お店番という役割を持つ場など、本が好きな誰でも自分に合った使い方ができます。若者、高齢者、失業者、障害者、移住者等の様々なカテゴリーの地域住民が利用しています。

蔵書は、関心を持った市民が月々定額の料金を本棚をレンタルし、お気に入りの本を並べ、利用者はその本を無料で借りることができます。ケアにまつわる新刊書籍、コーヒー等の飲料販売も行っています。お店番は医療福祉専門職であるスタッフと本棚を持つ市民が交互に行っています。ケアのある場と本のある場を両立させることで、本を通じたコミュニティ形成や支援につながるケアとまちの交差点となるような場です。

オープン日数

271日

Instagram





貸出冊数 販売冊数 一箱本棚  
オーナー数

**878冊 629冊 82組**

2022年度の**だいかい文庫**の利用状況は、貸出冊数878冊で、開館日は271日でした。開館からの延べ貸出冊数は2000冊を超え、推計利用者数は5000名を超えています。また2023年4月現在の一箱本棚オーナーは82組。豊岡市近隣の方が8割強、遠方から借りている方が2割弱程度の割合です。

今年度は、新刊書籍に関するイベントも複数実施しました。株式会社グランドレベルの田中元子さん、NPO法人Social Change Agencyでソーシャルワーカーの横山北斗さん、私設図書館ルチャ・リブロを運営する青木真兵さんなど、ケアとまちづくりに関するオピニオンリーダーをお呼びして、イベントを開催し、地域の方にケアと本の輪を広げました。



相談数

**34 件**

期間	相談数
60日	9件
50日	7件
40日	5件
30日	5件
20日	3件
10日	5件

**居場所の相談室**は、

週1回程度、医療福祉専門職が健康や孤独などの相談に応じる場である。創業時から実施している事業のひとつ。居場所の相談員は、地域に点在するコミュニティやサービスを把握し続け、必要とする方に紹介するなど、社会的処方担当「リンクワーカー」として機能しています。

2022年度の居場所の相談所の延べ利用者数は40名を超えた。内容は、家族の喪失体験、友人関係、メンタルヘルス、物忘れ等の医療相談、職場関係、キャリア相談、進路相談、病気をどう周りに伝えたいのかといった内容まで様々でした。必要に応じて、地域コミュニティや子育て包括支援センター等公的機関につながりました。



開催数 プロジェクト数

**7 件 3 件**

**ゆるいつながり研究室**は、

まちの居場所やゆるいつながり、生きがい/役割づくり等に関心がある市民が、専門職、非専門職問わず、語り合うミーティングです。

2022年度から豊岡市でスタートし、主婦、学生、福祉職、医療職、生協職員、行政職員など多様なメンバーで実施しています。孤食、認知症、場づくり、気になるあの人にどう声をかける？など多様なテーマで語り合い、ウォーリーグラム、認知症人と家族の一体的支援プログラム、もちよりごはん会など、いくつもの市民主体のケアのプロジェクトが生まれ、つながりや当事者性の発揮、ケアを開く取り組みが広がっています。



開催数 参加者数

**12 件 69 人**

**みんなのだいかい大学**は、

疾患や障害のあるなしにかかわらず、誰もが教えたり、教えられたりすることができる社会包摂型市民大学です。

医療福祉専門職やケアと暮らしの編集社スタッフがサポーターとしてサポートすることで、自分の得意なこと、好きなことで講座を実施し、同じテーマでつながることができます。だいかい文庫を中心に豊岡市内で講座を行っています。メルカリ初心者講座、うつ病の当事者による“うつ病者が働く”を考える講座、視覚障害者による障害者が芸術やスポーツを楽しめる方法を考える講座など、当事者性が発揮される場が広がっています。

# ケアとまちづくりに関する 普及啓発事業

弊社ではケアするまちをつくるための支援を自治体、法人向けに行っています。

2022年度は、弊社代表理事の守本が支援する養父市の社会的処方モデル事業を推進するコミュニティナーズの採用支援を実施しました。株式会社Community Nurse Companyに協力いただき、コミュニティナーズ養成講座を実施し、コミュニティナーズ採用につながりました。



また、コミュニティコーピング研修会、慶応義塾大学 堀田聡子先生や川崎市立井田病院の西智弘先生らの社会的処方や場づくりに関する講演会や勉強会を実施し、但馬を中心に活動が広がっています。公立図書館設計に関するアドバイザー、子どものウェルビーイングのための市民性を探求するプログラムのフィードバック会への登壇なども行いました。



## YATAI CAFE

YATAI CAFE (モバイル屋台 de 健康カフェ) は、医者や看護師など医療従事者が小さな屋台をひいて街を歩き、コーヒーやお茶をふるまいながら、気軽に健康の話をする活動です。多様な人々が集い思い思いの過ごし方ができる小規模多機能な公共空間を作っています。コロナ禍であり、2022年度は1回の実施に留まりました。



# 2<sup>nd</sup> Anniversary



孫 大輔  
理事

だいかい文庫2周年おめでとうございます。豊岡において社会的処方の実装にとどまらず、多様な人が安心して集える地域の「居場所」ができていくことに大きな希望を感じています。これからも新しい挑戦を続けられることを期待しています！



本田 尚子  
事務局長

商店街の一角の小さな図書館兼本屋が、皆さんに支え助けられて2周年を迎えました。関わってくださる全ての方に心から感謝申し上げます。これからもケアと暮らしのハブとして、皆さんと一緒に作っていく場であればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



城戸口 智也  
プロボノ

僕にとってだいかい文庫は、心がモヤモヤしたときや、気持ちが落ち込んでいるときに立ち寄り避難所のような場所です。だいかい文庫で、人と対話し、本を読み、地域の人たちと繋がることで、孤独感を和らげ、再び元気になる場所だと思っています。



柚木 秀彦  
プロボノ

2周年おめでとうございます。私自身もケアくらとの関わりの中で、家庭とも職場ともまた違った居場所を味わうことができている。あそこに行けば何かある、誰かが居る。そんな街の御守りのような存在として、これからも、在り続けていてください！



藤岡 聡子  
理事

だいかい文庫、2周年誠にありがとうございます。自分の「好き」を起点に、自分で深めていく空間、誰かと学び合う体験、そうした光景が、大開（だいかい）通りに明かりを灯してきた2年間。これからもますますの繋がりの発展を、心からお祈りしています。



佐藤 春華  
リンクワーカー / 保健師

「街で暮らすことで気づいたら Well-being になっている社会」の実現に向け、多様な方の多様な参画して下さっていると思う今日この頃です。今後たくさんの方と仲間になりながら未来に向かっていけたらと思っています。



赤嶺 彩世  
一箱本棚オーナー

豊岡での人との出会いや学びには、いつもケアと暮らしの編集社の取組みが側にあったように思います。色々な人が自ら巻き込まれにいく。いつも面白いなあと私自身も巻き込まれながら、そう感じています。関わる人が増えれば可能性は無限大。楽しみです。



伊藤 紀慧  
プロボノ

オープン当初は「だいかい文庫が面白そうだ」と興味本意で近づいていましたが、今ではケアくらの中に入り活動に関わるようになりました。これからも、誰かにとって少しでも寄りどころになれる、そんな場所であってほしいと思っています。

# ケアと暮らしの編集社との関わり方

ケアと暮らしの編集社ではさまざまな形での参加、寄付を受け付けています。

ご関心のある方や法人様向けの詳細については、右のQRコード、

その他お問い合わせはメール [info@carekura.com](mailto:info@carekura.com) よりご覧ください。



## 参加する

### 一箱本棚オーナー

2,400円/月

自分だけの本棚を持つことができ、お店番、コーヒー無料などの特典がつかます。

### お店番インターン

本棚は持たないけれど、地域や社会との接点を持ちたい人におすすめです。月2回程度のお店番をお願いしています。

### プロボノ

ケアとまちづくり、社会的処方に関心がある方で、ご自身の専門性を生かしてプロジェクトの企画や運営に参加しませんか？

## 寄付で応援する

### 単発寄付

寄付額をご自身で  
お決めいただけます

Syncable（シンカブル）や銀行振込等からご寄付いただけます

### マンスリーサポーター

ー口 500円

月500円からの月額サポーターです。年次報告書を送付します。また、希望される方は、だいかい文庫一箱本棚オーナー facebook グループに招待します。

### 古本寄付

株式会社ブギ 本棚お助け隊様ご協力の元、古本、CD、DVD、ゲームソフトの査定額 + 10%の金額がケアと暮らしの編集社に寄付されます。

## 講演・ワークショップ・視察

### 講演

代表の守本陽一による、総合診療医、公衆衛生医師として勤務した行政、臨床経験と法人を立ち上げて得られた経験からお話します。医療/福祉/行政機関、市民活動団体、図書館、大学講義、企業研修等にお声かけいただきました。テーマや目的に応じてアレンジしますので、ご相談ください。

### ワークショップ

地域に開いた医療福祉施設の作り方、人とまちをつなげるリンクワーカー養成講座等のワークショップの実施が可能です。ケアと暮らしの編集社が持つネットワークを活用し、地域保健、臨床心理、コミュニティデザイン等に専門性を有する弊社メンバーとともに、独自のプログラムを提供します。

### 視察

だいかい文庫、YATAI CAFE、だいかい大学等の社会的処方プロジェクトに関する視察受け入れが可能です。

視察目的に応じて、弊社メンバーがご説明します。(有償)

2022年度  
メディア  
掲載



日本経済新聞

